



キャンパス ミュージアム散策

絵・文 / 松永 拓己

大学院教育学研究科
教授・芸術家

肥後医育ミュージアム

熊本市中央区本荘2-2-1肥後医育記念館2F
Tel.096-373-5426 入館無料

※どなたでも見学できます

開館 / 月～金曜10:00～17:00(土・日曜、祝日、本学夏季一斉休業の期間等は休館)

交通機関 / バスをご利用の場合、「大学病院前」バス停下車徒歩1分

*熊本大学病院にお越しの際には、正門の横断歩道を渡り、すぐ左手側に見える建物にてご覧ください。

*イラスト画は「肥後醫育史」写真を参考資料として制作。向かって右側が、若き日の北里柴三郎、左側がマンスフェルト像である

いまだ何者でもない 北里柴三郎に出会う

熊本大学内の小道をゆく。

「熊本大学病院」の正門の道路を隔てたすぐの所に、「肥後医育ミュージアム」がある。ここで、いまだ何者でもない北里柴三郎に出会った。

「古城医学校」の先生と生徒たちの集合写真が目に入る。

その中心にはオランダの海軍軍医であったマンスフェルト先生がいる。その左手に朴訥な青年を見る。若き日の北里柴三郎である。20歳ごろの写真だろうか、小国から出てきて医学の道を志したばかりの姿である。遠い強い瞳が印象的である。のちに偉業を成すその若き瞳は何を見つめていたであろうか。いまだ何者でもない柴三郎の姿に見入った。

肥後医育ミュージアムに入ると、熊本大学医学部の第1回卒業生から現在まですべての卒業生の名前が記された壁が出迎える。圧倒される。ここに立つと医学への自覚と、いまだ何者でもない自らがすべきことを自問させられる。自らができることはなんであろうか。北里のように病に苦しむ人々を救うべく思いが奮い立つであろう凄みがある。

ここには熊本大学医学部の前身である「再春館」(1756(宝暦6)年設立)から携わった人々と文物の歴史の記録が展示されている。

